

釧路南ロータリークラブ会報

第33回 例会報告 2009.3.6 通算1292回

・点 鐘 北上会長

・ロタリーソング

「奉仕の理想」「君が代」「四つのテスト」



ソングリーダー 佐野 実会員

います。是非、大いに楽しみ友情と奉仕の新たな広がりが輪を大きくしてくれるものと、思っています。帯広北ロータリークラブの50周年記念で大変お世話になりました音更ロータリークラブの皆さんにお会い出来るのを、楽しみにもしています。ただ、工藤幹事といるとあちこち挨拶されても、目線が幹事に行っていていつも無力感、挫折感に襲われているそんな自分が、イトオシク次期会長の大いなる偉大な肥やしに徹しようと憂う最近であります。が、とてもそんな私を癒してくれているのがラッコのクーちゃんです。針が刺さって心配していましたがなくなったと聞いて安心しています。心なしか夜良く睡眠できているかなと思います。前回、板もあつたらと思っておりましたが、筏が都合よく出現し餌も、たつぷりと川にあるようですので見た目太ってきました。安心です。

・入会記念祝

長井 一広会員 H 20. 3. 7 (1年目)

・会長挨拶



明日の中標津のIMには沢山の方のご参加を頂き有難う御座います。残念ながら参加できない方は、お仕事大変にお忙しいと推察いたします。皆さん公私の大変繁忙の中、参加出来る私は幸せだと思って

・幹事報告



- * 釧路北RC、根室西RC、浜中RCより3月プログラムを拝受しております。
- * 釧路ベイRC、釧路西RC、別海RCより3月プログラムと会報を拝受しております。
- * 釧路東RCより3月プログラムと月報を拝受しております。
- * 釧路北ローターアクトクラブより3月7日例会

のご案内と1月例会報告を拝受しております。

- * 本日例会終了後釧路ロイヤルイン裏駐車にて南RC主催の愛の献血になっております。
- * 3月3日釧路ベイRCより女性会員のみ「ひなまつり例会」のご招待を頂き工藤幹事・山本会員の2名で出席させて頂きました。
- * 今月の理事会は27日金曜日例会終了後予定しております。変更等があれば早めにご連絡さしあげます。
- * 明日は中標津でのIMですがマイカーの方はくれぐれも運転に気をつけて行ってほしいと思います。また、バスの方は時間に遅れないようお願い致します。

・委員会報告

親睦委員会

- ・本日のニコニコ献金
長井 一広会員 入会記念祝として

出席委員会

会員 26名 10名出席 出席率 38%

・本日のプログラム

「家庭集会報告」

担当 クラブ奉仕委員会

- ・報告書長倉会員



Aグループ 家庭集会報告

- 日時 平成21年2月13日
- 場所 まなぼっと
- 座長 清水会員
- 出席者 木内会員、工藤幹事、北上会長、福井会員、高橋会員、長倉会員、佐藤会員、菅井会員、山本会員
- テーマ：CLPと会員増強

A班は10名の参加でまなぼっと・まいづるにて開催されました。大変、活発な意見が飛び交い又、笑いの耐えない家庭集会だったと思います。

• CLP

大規模クラブだと、4大委員会でやっているのが小規模だと4大奉仕でやっていくのは難しくなっている。RIはCLPを推進している。分け方については、そのクラブに合ったように分ける。クラブ奉仕委員会に所属している人が若い人に偏っている。阿寒湖クラブでは、大きく2つに分けてクラブ運営委員会とクラブ奉仕委員会とに分けている。実際に名前だけあって機能していない委員会もある。細則と活動計画書の作成前に決定しなければならない。1月から6月にCLP施工準備。会長、幹事が先頭にたってやっていく。今年度中に理事会で決定。最終的に理事会で決定。CLP導入にデメリットはない。メリットは大きい、皆で話し合ってできる。CLPには3年委員会が必要。6月までに検討し7月に導入する、その後2年で修正していく。CLP導入により、プログラムの中身が変わるわけではない、CLP導入によって何が変わるのかよく分からない、今のクラブの組織を改変しやり易いようにやっていけばいい。時代に合った、各クラブに合った形に体制を変えていけばいい、4大奉仕を中心という形には、はまらなくていいのではないかと、来期の組織メンバーはびっくりするような体制を考えている、新しい会員に仕事の負担が多くなっている、会報を頼んでも断る人がいる。

- 会員増強、出席率向上

出席率の向上のためアルコールなしの夜間例会を増やしてはどうか、アルコールがなければ来ないのではないかと、今期、新入会歓迎会をやっていない、集団メイキャップをも委員長任せではなく、みんなで考える、長期欠席者を出席させる方法を

考える、100%出席例会をやってはどうか、やったことはあるが効果がなかった、自分達で工夫して参加しやすい例会を考えてみる。

* A班の全員の了解事項として

CLPの導入には全体の賛成が必要、クラブ協議会等で話合う。7月から導入する。

感想：CLPに対してのイメージと内容の把握が会員によってギャップがあるように感じます。共通したイメージで進めないと話が噛みあわなくなる。一旦CLPの内容を全員に同じ認識に立つ必要。B班の考えも確認し、同様の意見であれば7月に向けて動き始めていく。

● 長江Bグループ座長



Bグループ 家庭集会報告

- 日時 平成21年2月20日(金)PM6:30~
- 場所 まなぼっと9階「レストランまいづる」
- 座長 長江会員
- 報告 渋谷会員
- 出席者 北上会長、工藤幹事、小野会員、和田会員、佐野会員、長井会員、安藤会員、船戸会員、森江会員

CLP(クラブ・リーダー・シッププラン)導入について

はじめに・・・今までは四大奉仕委員会(クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕)と言う形で各小委員会があってやっていましたが、現状では100人位会員がいるクラブにあった委員会です。各クラブも少人数化となり四大奉仕の小委員会に各会員を割り当てると二股、三股と掛け持ちしているのが現状

です。このような現状(特に小クラブ)に合致したのがCLPと言う事です。

(資料読み上げ)クラブ・リーダー・シップ・プランとは、ロータリークラブに推奨される管理的枠組みであり、効果的なロータリークラブのベストプラクティス(最善の実践方法)に基づいて作成されています。それぞれのロータリークラブは独自に異なる存在であるため、クラブ・リーダー・シップ・プランは、世界中のクラブの個々のニーズに応用できる柔軟性を備えています。クラブ・リーダー・シップ・プランの採用はすべてのクラブに義務づけられているわけではありませんが、次のようなベストプラクティスに基づく標準化された管理上の手順を採用することは、新旧を問わずすべてのロータリークラブにとって有用となるでしょう。

「クラブ・リーダー・シップ・プランは、各奉仕部門におけるクラブの目標を達成するための力を高める一助となる」

奉仕部門は効果的なクラブの土台です。効果的なクラブは、以下を遂行することによってロータリーの綱領を果たすことができます。

- 会員基盤を維持、拡大する。
- 地元地域社会ならびに他の国々の地域社会のニーズを取り上げた成果のあるプロジェクトを実施する。
- 資金の寄付およびプログラムへの参加を通じてロータリー財団を支援する。
- クラブ・レベルを超えてロータリーにおいて奉仕できる指導者を育成する。

「当初私たちは、クラブ・リーダー・シップ・プランの実施によって、ただでさえ多忙な会員たちにさらに多くの仕事を課すことになるのではないかと心配していました。しかし今では、より多くの会員に責務を幅広く分担することによって、このプランの長所がよくわかりました」

クラブ・リーダー・シップ・プランの利点

現在のクラブ運営を見直す機会を与えるクラブ・リーダー・シップ・プランは、クラブに数々の利点をもたらします。

- クラブの将来について、すべての会員に意見を述べるチャンスが与えられる。
- クラブ運営を簡素化することによって、奉仕と

親睦に集中するためのより多くの時間を会員に与える。

- クラブ会員がより一層関与することによって、将来のクラブおよび地区指導者が育成される。
- クラブ活動に会員がより多く参加するにつれ、会員保持率が高くなり、退会防止につながる。
- クラブ指導者は、クラブ目標を達成するためにより多くの会員の協力を得ることができる
- 任命とクラブ目標の間に継続性を持たせることによって、ある年度から次の年度への移行が容易になる。
- クラブの慣習を新鮮な目で見直すことによって、ロータリーへの熱意が新たになる。

プランの施行

元、現、次期クラブ役員が共に協力し、以下のような方法に基づいてクラブに適した形にリーダーシップ・プランを修正します。

1. 効果的なクラブの要素に取り組む長期目標を立案する。

長期目標は、今後3年から5年間にわたるロータリー年度に適用され、効果的なクラブの要素(会員増強、奉仕プロジェクト、ロータリー財団、指導者育成)に取り組むものとされます。また、長期目標は、これらの各要素においてクラブの成功を促す方策を含むものでなければなりません。クラブのリーダーシップ・プランが数年間にわたり進展するにつれ、これらの目標も随時更新されるべきです。

2. 「効果的なロータリー・クラブとなるための活動計画の指標」を活用し、クラブの長期目標と調和する年次目標を設定する。

「活動計画の指標」には、年次目標を達成するために活用される一般的な方策が記載されており、クラブは独自の方策を追加して記入することができます。これは、必要に応じて内容を更新することができ、随時活用すべき資料であると考えてください。年次目標は、各奉仕部門を取り上げ、クラブがロータリーの綱領を追求するのを支援するものであるべきです。目標設定に関するその他の情報は、「クラブ役員キット」(225-JA)をご参照ください。

3. 計画過程に会員を関与させクラブ協議会を実施し、ロータリーの活動に関する情報を随時伝える。クラブ協議会の開催によって、クラブの全会員が最新事情を把握し、クラブ活動に参加していると実感

することができるようになります。多くのクラブでは、会員全員がクラブに関する決定事項を協議するための機会として、また、委員会が活動を報告するための機会として協議会を活用しています。

4. クラブ役員、クラブ会員、地区指導者の間の明確なコミュニケーション(連絡)を保つようにする。

クラブ会員全員とガバナー補佐が出席する定例のクラブ協議会を開催することによって、明確なコミュニケーション(連絡)が促されることとなります。クラブ協議会のない時には、クラブ指導者が協力し、クラブ指導者同士、およびクラブ会員と地区指導者と連絡を取り合う方法を確立する必要があります。コミュニケーションの計画を立てる際には、誰が誰に連絡するのか、どのような連絡手段を用いるのか、いつ連絡すべきかの概要をまとめてください。

5. 将来の指導者育成を確実にする一貫した引継ぎ計画の概念を含め、指導者の継続性を確保する。

ロータリー・クラブの指導者は毎年交代するため、すべてのクラブは指導者の継続性を確保する必要があります。この継続性を実現する最も成功率の高い3つの方法として、複数年任期で任命すること、全委員会に現・次期・元委員長を委員として含めること、現職のクラブ会長が会長エレクト、会長ノミニ、直前会長の各者と緊密に協力することがあります。

6. クラブ委員会構成とクラブ指導者の役割と責務を反映させるべく、クラブ細則に修正を加える。

RIから提供される推奨ロータリー・クラブ細則に修正を加え、クラブ独自の運営を反映させます。この他の情報は、本書の「クラブ細則」(第6ページ)および推奨ロータリー・クラブ細則(第9ページ)をご覧ください。

7. クラブ会員の親睦をさらに深めるような機会を提供する。

ロータリーを楽しんでいる会員は、自分が参加しているという実感を持ちやすいものです。クラブの親睦を充実させることで、クラブの奉仕活動も助長されることでしょう。

8. 会員全員がクラブのプロジェクトや業務に活

発に關与するよう計らう。

クラブに關与することによって会員はロータリーについて学ぶことができ、クラブの活発な会員であり続けます。活発な会員は、クラブのプロジェクトが自分のものであると感じ、さらに熱心に活動するものです。

9. 包括的な研修プランを立案する。

包括的な研修は、以下の分野を確実に行うようにします。

- ・クラブ指導者の地区研修会合への出席
- ・新会員のための一貫したオリエンテーションの定期的な実施
- ・現会員のための継続的教育の機会の提供
- ・全会員への指導者育成プログラムの提供

将来の指導者を育成するために研修は非常に重要です。研修によって、現在のクラブ役員はロータリーの情報に精通し、クラブをより良く指導し、さらに充実したロータリーの奉仕を行うことができるようになります。クラブ指導者は、プランがクラブの目標に適い、クラブの独自性を反映させたものであり続けるよう、プランを毎年検討しなければなりません。プランを施行および検討する際、あるいは年度を通じて必要な場合には、地区指導者（特にガバナー補佐）に援助を要請してください。

「プランが最初に紹介された時にはいつものことながら非常に多くの反対者が現れましたが、それ以来、皆がプランの長所を認めるようになりました。」

推奨されている期日設定

クラブ・リーダーシップ・プラン施行の準備（1月～6月）

- クラブの現・次期理事会メンバーが会合し、クラブがどのようにしてクラブ・リーダーシップ・プランを施行するかを決定。
- 決定をクラブ全体に知らせ、クラブ会員全員の参加方法について協議するため、クラブ協議会を開催。次期ガバナー補佐が出席できない場合、クラブは、決定事項を地区指導者に伝える。
- クラブの現・次期理事会メンバーが、活動の漸次移行や可能な限りの会員の参加といったプラン施行の時間的枠組みを設定。
- プランに一致した形で、クラブ細則の内容を修正。プランの施行（7月1日）

- クラブ目標の達成に向けてクラブ諸委員会が活動を開始。

- 必要に応じて「効果的なロータリー・クラブとなるための活動計画の指標」の内容を修正。

プランの査定（1月1日）

- クラブ指導者と会員がリーダーシップ・プランを見直し、細則の改正などの必要な調整を加える。

次ロータリー年度の準備（5月1日）

- 次期指導者は次年度の準備を進め、クラブはリーダーシップ・プランに必要な修正を追加。クラブの長期目標および細則も見直しを行う。

意見交換

クラブ細則については、現在の細則とちょっと違うみたいですのでロータリーで出している物があるのでそれを参考にしてクラブに合った細則に部分的に変更するしかないでしょう。現にやっているクラブがあるのでそれを参考にしたらどうか。

組織図があるのでそれを見たらわかりやすい。会報の問題。（工藤幹事より）

- 会報の原稿が関川さんにきちんと送られていない。
- 一度、集まりを設けて打ち合わせをしなければならない。

さいごに・・・上記の件を含めて次年度の7月より当クラブもCLPを導入する形で進めていき、今すぐCLPで改革を進めるのではなく、その都度問題等が発生した時にCLPを活かして問題解決をすべきではないか。当クラブに合った形で運営（CLP）を行い、その事はクラブ運営の合理化・効率化となりさらにクラブの活性化につながり最終的には会員増強となる事が一番と言える。

・次回のプログラム

3月13日（金）

「会員ミニ卓話」

会場 釧路ロイヤルイン 11F

担当：新世代委員会

- 点 鐘 北上会長
今週の会報担当：長倉巨樹彦会員